

労使研

労使関係研究協会

〒105-0014

東京都港区芝2-20-12

友愛会館9階

一般財団法人日本労働会館内

TEL. 03-3453-5386

FAX. 03-3451-1710

<http://roshiken.net/>

roshiken@rodokaikan.org

「情報」第70号 2026年9月

友愛会創立を記念する会

114周年記念式典・祝賀会、87人が参加

「友愛会創立を記念する会」の式典・祝賀会が8月1日（土）午前11時から、来賓、支援団体、個人会員、招待者など87人の参加を得て開かれました（会長；高倉明、後援：連合）。

記念式典は、川崎俊輔事務局長（日産労連事務局長）の司会で始まり、物故者への黙とう、主催者代表挨拶、来賓祝辞（連合、民社協会、政策研究フォーラム（祝辞概要は次ページ））と続き、壬生守也副会長（電力総連会長）の乾杯発声で開宴。土曜開催とあって例年より少ない人数となりましたが、参加者はゆっくりと友好のときを分かちあいました。

会場では「社会民衆党」の結党100年を記念して、社会民衆党と安倍磯雄、普通選挙法関連のミニ展示コーナーを設置。さらに、会場の一角に当日欠席の会員から寄せられた近況・メッセージが掲示され、参加者は三々五々、杯を傾けながら目を通していました。

支援団体は、海員組合、基幹労連、基金労組、交通労連、JP労組、自治労連、電力総連、日産労連、UAゼンセン、味の素労組、JX金属労組、TOPPAN労組、三菱自工労組、（株）友愛会館、（一財）日本労働会館の15団体。



主催者代表あいさつ

友愛会創立を記念する会 高倉明会長（金属労協前議長）

暑い日が続いている。114年前に友愛会ができた頃はこんなに暑くはなかっただろう。温暖化で日本が変わってきている。こういった自然状況の変化に対していかに備えるかということも、新たに必要になってくる。冒頭、司会の方から熊本の話がでたが、私は実家が熊本で、家がある。今は誰も住んでいないが。自然災害に対して、日ごろからどれだけ準備ができるかが大事だ。何が起こるかわからないので、備をしておく必要があると思う。

今日は同志の皆さんとまたお会いすることができて嬉しく思う。連合からもお忙しいなか会長にご参加いただき、また民社協会からも会長に、そして政策研究フォーラムからは理事長にご参加いただいている。ところで、まだ民社協会はあるのか。私たちの砦であるのでしっかり頑張っていたきたい。

さて、114年前に友愛会ができたが、友愛の運動論、産業民主主義を大切にしながら、自由にして民主的な、そして健全で緊張感のある労使関係をベースに、産業・企業の発展と働く者の幸せをめざすという流れは、今我々の原点である。これはしっかりと連合に引き継がれているので、今後ともこの基本理念に沿って運動を続けていかなければならない。連合に期待するのは、我々の望む政策・制度の実現。連合を作った目的と最大の課題は政策・制度だ。連合としてどう取り組んでいくか。政権交代可能な政治体制の構築、これはある程度実現はできた。あとはどうやって政権をとりに行くかだ。連合としても一体感をもって、働く者の幸せのための政策・制度実現活動の充実を図ってほしい。

友愛会は、この地にあったユニテリアン教会で始まった。私の父、祖父は日本福音ルーテル教会の牧師であった。私が継げば3代目になるが、要望の声がなく、こういうことになっている。日曜日はできるだけ教会へ行くようにしている敬虔なクリスチャンでもある。そこで感じるのはやはり「愛」だ。労働組合から愛をとったら組合にならない。愛をどれだけ大切にしていかが重要だと思う。労働運動もナショナルセンター、産別、単組がそれぞれの役割と責任を果たしていく。それぞれの役割と立場で、まずは認識を明確にして労働運動を進めていくことだと思う。本日集まった方々で頑張っていくことをここで皆さんと誓い合いたい。



来賓祝辞（敬称略）

連合（日本労働組合総連合会） 芳野友子会長



懐かしい顔、元気な顔を拝見し、とても嬉しく思う。はじめに私からも、熊本の地震についてふれたい。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様にお見舞いを申しあげたい。連合は一昨日、災害対策本部を設置し、連合熊本と連携をとりながら、具体的に何ができるか、情報収集を含め対応している。引き続き皆様にもご協力をお願いしたい。

私の立場からは連合の取り組みをいくつか紹介しながらごあいさつに代えたい。一つ目は2026春季生活闘争について。建設的な労使交渉の積み重ねの結果、今年も全体で5.01%と、連合が目標とした5%以上という目標を達成することができた。高水準の賃上げが3年連続となる。格差是正の課題についてもしっかりと取り組んできたが、残念ながら300人以下については4.69%という結果になってしまった。2026春季生活闘争は結果にこだわるということで取り組んできたが、中小が追い付かなかった点は2027に引き継いでいきたい。

いま、地方と都市部で抱えている課題がかなり違う。側面から支えるため地方版政労使会議ということで47都道府県の政労使が課題を共有しながら地方の活性化に向けて具体的にどのような取り組みをするのが良いのか、というようなことも進んでいる。今年は連合アクション対話というものも設けて私が現地に出向き、現地の中小の経営者と対話を重ねながら2027春季生活闘争に結び付けていきたい。

そして昨年を振り返ると戦後80年という年で、連合が加盟しているITUCからもゲストをお呼びし、また、アメリカ、ドイツ、イギリスのナショナルセンターのトップも連合の平和行動広島・長崎に入っていた。そして一昨年から取り組んでいる核兵器廃絶と恒久平和の署名活動も542万筆が集まり、今年NPT再検討会議で中満事務次長に渡した。ナショナルセンター連合としては平和と民主主義なくして労働運動なしということを、国際会議の場でしっかりと訴えており、ナショナルセンター連合が世界を引っ張っていくという気概をもって、引き続きこの課題に取り組んでいきたい。

最後にジェンダー平等にもふれたい。1991年に連合は第一次女性参加推進計画を設定し、意思決定の場への女性の参画に力を入れてきた。しかし35年経った今でも、残念ながら男性中心の労働組合で、なかなか50:50が達成できない。この間友愛会を中心に女性の地位向上をしっかりと進めていただいていた、この思いを私自身も受け継ぎながら、これからの多様性の時代の中で様々な課題を取り上げていくためには女性参画は外せない課題だと思っている。ジェンダー平等推進については持続可能な労働組合のこととしてしっかりと進めていきたいので、先輩方からも様々なご指摘をいただければと思う。結びに、この間、先輩たちが築きあげてきた労働運動をしっかりと受け継いでいくことを誓い、今日お集りの皆さんのご健勝を祈念する。本日はおめでとうございます。

民社協会 川合孝典会長（参議院議員）

友愛会創立を記念する会が盛会裏に開催されたことを心よりお慶び申し上げる。また、仲間の皆様には日頃より民社協会の諸活動をはじめ様々な局面で私どもの活動を力強く支えていただいていることを、民社協会所属議員を代表して心から御礼申し上げます。

先ほど高倉会長から「民社協会はまだあるのかと聞かれたが（笑）ちゃんとある。一時、民社協会の所属国会議員も減少の一途を辿り、いちばん少ないときには7人にまで減った。参議院6人、衆議院1人という状況になったが、民社協会所属議員団の所属数は選挙のたびに増え、現在23名の国民民主党の議員が所属しており、こうした方々がそれぞれの地域で産別の皆さんにご支援をいただいて、バッジを付けさせていただいている。以前と違って、趣旨を理解して応援をいただいている地域、組織、産別の皆さんのためにしっかり汗をかくということをコミットしたうえで国会議員団に入らせていただいております、こうした仲間とともに、国民民主党の政策を日ごろから行っている。

さて昨今、政治の動きについて、国民民主党の連立入りなどいろいろ報道がされている。しかし、そもそもの目的・理由が何なのかを見失っているように思う。これは応援している側も同じだと思う。組合員のために、働く仲間のために、政治に対してどういった働きかけを行うのかということこそが問われている。誰のため何のためにこれを行っているのかという原点を忘れたときに政界が混乱するのだと、私自身、骨身にしみて痛感した。したがって、枠組みをどうするのかでなく、何をするのかがまず問われなければならない。報道は様々あり、いろいろな思惑も渦巻いているようだが、我々は民社の精神に則って、友愛会設立当初から足並みを揃えてきた、皆さんの生活とこの国を守るために何をするべきなのかという一点で、民社協会としてこれからも活動していきたい。本日も参集の先輩・同志の皆様には変わらぬご理解とご指導を賜うよう心からお願い申しあげ、合わせて友愛会の活動がこれからも将来にわたって営々と続くことを心から祈っている。



政策研究フォーラム 谷口洋志理事長（中央大学名誉教授）



ごあいさつするのは今回が4回目で、今回が最後になると思う。つい最近の国会でも議論された3点についてなるべく短く・1週間前に散髪した私の髪のように、なるべく短めにカットして挨拶に代えたい。

1つ目は副首都機能にかかわる議論。いとも簡単にあのように副首都の法が決まって良いのか。7月27日の日経電子版の社説では、「副首都の姿をしっかりと議論せよ」と題して、副首都の在り方をしっかりと議論するのが先だろうと述べていた。まったく同感である。思い出すのは1990年代の首都機能移転の議論だ。1990年には衆参両院で国会等の移転に関する決議が行われ、2年後の92年には国会等の移転に関する法律が作られ、そして候補地がいくつか出された。ところが結局は10年、10数年議論してどこかへ行ってしまった。今回はそれに近い議論だが、パッと出てきてパッと決めてしまった。こんなことで良いのか、心配している。

2つ目は、副首都だけでなく教育無償化で維新が議論を展開してきた。私がいつも教育の関係者として腹が立つのは、教育無償化で毎月数千円のコスト負担をカットする、そんなことより先にやるべきことがある。それは教育の質を上げる、教員の質を上げる。給食の質を上げることだ。そんな議論が全然ないまま数千円程度の負担を軽くすることで教育無償化を実現する、馬鹿じゃないか。そうこうするうちに私の故郷の富山県では、今年の1月にとんでもない計画を発表した。新時代富山ハイスクール構想があり、現在県立高校は富山県に34校あるが、これを20校にまで減らすと。これだけ見ると何か大胆なことをしているとわかるが、私からすると、そんなことは数十年前にやるべきだったのに、ようやく動いたのかということ。私の同じ学年の人は2万5千人くらいいた。それが今は1学年8千人しかいない。これが12年後には6千人にまで減る。生徒の数が三分の一に減っており、さらに四分の一にまでなろうというとき、今さら減らすのはあまりにも時代遅れだ。

大学も、2025年度に624の私立大学があるが、財務省がこれを2040年までに250大学、14万人減らすというプランを発表した。すると早速文科省は、文部科学行政をやってくれば良いが、文句を言っていた。これは我々の管轄だと。本当に文科省は何も考えていない。今年の5月に発表された学校基本調査では、今年大学等に進学したのは64万5千人。最近発表された昨年の出生数は67万1236人。子どもの数は恐らく1990年から40年後の2030年には60万人ぐらいになる。1950年に240万だった子どもの数が、40年後の90年には120万に減り、さらに40年後の2030年には60万人まで減る。なのに大学の数は1992年から2024年の間に1.6倍に増えてきている。子どもの数が60万人になろうとしているときに、今年は大学だけで64万5千人、短大と高専を入ると69万人くらい入学している。生まれた子が60万人なのに70万人近い子どもが大学に入る。こんなことはあり得ない。こういった大事なことを、成長投資、きつかけ投資も大事だが、自分たちの周りで起きている将来的な大変なことに対して全く議論していない。政策も戦略も打ち出せていないことが、政策を勉強する我々としては不満に思うところだ。

最後になるが、消費税の食品関係を2年間だけ1%にするというプラン。これは明らかに専門家の立場からするとバカげた意思決定だ。財政学とマクロ経済学の教科書を見ると、課税の平準化、税率の平準化という議論は、これが基本的なルールだと書かれている。税率や税金の水準は簡単には変えるものではない。却って弊害が大きくなるというもの。2年間だけ1%に持ってくるというのは大変弊害が大きい。専門家からすると常識に反することを決めている。こういったことで政策研究フォーラムとしては最近の政策の決まり方として大変不満、課題があると思っている。



乾杯
壬生守也副会長



司会
川崎俊輔事務局長



次回は2027年8月1日(日)に開催します

◆歴史館を届けます◆

全国出張講演の実施について

友愛労働歴史館は、友愛会創立100周年の2012年8月1日に新装オープンした友愛会系労働運動、社会運動に関する歴史資料館です。

友愛労働歴史館は、①友愛会以来の日本労働運動、②友愛会ゆかりの政治活動、③ユニテリアンゆかりの社会運動、に関する史料館をめざしています。昨年度から、労使研会員組織を対象に、常設展示「日本労働運動の100年余」の歴史を広く知らしめることを目的に「出張講演」も積極的に行っています。

時間や講演内容については、以下の例を参考に、ご相談ください。

[スタンダードコース]

①60分コース＜基礎簡潔編・一般向き、職場役員及び執行委員向き＞

ようこそ友愛労働歴史館へ（日本労働運動発祥の地）

第一部 労働運動前史 福澤諭吉とユニテリアン

第二部 戦前の労働運動 1897年（明治30年）～1940年（昭和15年）

第三部 戦後の労働運動 1946年（昭和21年）～

第四部 友愛会、鈴木文治・松岡駒吉のメッセージ

②90分コース＜基礎編・執行委員及び職場役員向き＞

常設展示スライド使用「日本労働運動の100年余」

①の詳細版

③120分コース＜詳細編・執行委員向き＞

常設展示スライド「日本労働運動の100年余」日本労働運動の100年余から民主的労働運動を探る

②の詳細版

「日本労働運動の100年余から民主的労働運動を探る

[オプションコース]

A 生産性運動三原則 40～60分

B リーダーシップ論の基礎 30分

C 労使関係論（コーポレートガバナンス） 60分以上

D 労働組合にとってなぜ政治が必要なのか 60分以上

スタンダードとオプションコースの組み合わせも可能です。

時間や講演内容についてはすべてご相談ください。

会員対象の講師料は無料、旅費交通費は財団で負担します。

とくに日程は早めにご相談ください。

Tel. 03-3453-5386



友愛労働歴史館メール

東京観光・出張・研修・受験の宿泊は
ローズステイ東京芝公園をご利用ください
(旧三田会館)



ローズステイ東京芝公園
公式WEBページ